

特定小電力タイプ1mW受信機
【WCP-426R-R】

取扱説明書

V1.40

目次

第1章. お使いになる前に.....	1
1-1. はじめに.....	1
1-2. 付属品及びオプション.....	1
1-3. 安全上のご注意(必ずお読み下さい)	2
1-4. 概要.....	5
1-5. 機器構成.....	6
1-6. 仕様.....	7
1-6-1. 送信機「RC-426T」.....	7
1-6-2. 受信機「WCP-426R-R」.....	7
1-7. 各部の名称と説明.....	8
1-7-1. 送信機「RC-426T」.....	8
1-7-2. 受信機「WCP-426R-R」.....	8
1-8. 寸法図.....	10
1-8-1. 送信機「RC-426T」.....	10
1-8-2. 受信機「WCP-426R-R」.....	10
1-9. 設置方法.....	11
1-9-1. 設置時の注意事項	11
1-9-2. 送信機「RC-426T」の設置.....	11
1-9-3. 「WCP-426R-R」の取り付け.....	11
1-9-4. 「WCP-426R-R」の端子台へのケーブル接続.....	12
1-9-5. 「WCP-426R-R」の入出力端子台回路構成.....	13
1-9-6. 「WCP-426R-R」の電源入力端子台	14
第2章. 使い方.....	15
2-1. 送信機「RC-426T」.....	15
2-2. 受信機「WCP-426R-R」の動作設定	15
2-2-1. 端子台出力点数の設定	15
2-2-2. スルー、ラッチタイプの設定	15
2-2-3. セットNo.の設定	16
2-2-4. CH及びSET設定方法.....	16
2-3. 受信機「WCP-426R-R」の動作説明	18
2-3-1. スルータイプ動作.....	18
2-3-2. ラッチタイプ動作	18
2-3-3. 「WCP-426R-R」出力点数設定と送信機設定の出力端子位置.....	18
2-4. 運用にあたって.....	19
2-4-1. 送信機と受信機の設定例.....	19
2-4-2. 受信タイミング	20

第3章. 取扱上の注意	21
3-1. 取扱上の注意事項.....	21
3-2. トラブルシューティング	22
3-3. おかしいな?と思ったら	23
3-4. 保証.....	24
添付設定表	26

第1章. お使いになる前に

1-1. はじめに

この取扱説明書には、本製品の概要、設置及び操作など、本製品をお使いいただく上で必要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前によくお読み下さい。また、いつでもご利用頂けますよう大切に保管して下さい。

1-2. 付属品及びオプション

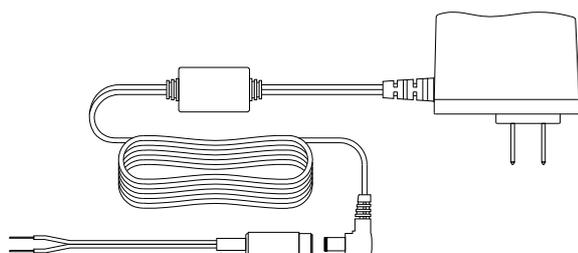
<付属品>

なし

<オプション> (別売)

■ACアダプター(変換ケーブル付き) [ADB12100L-C]

(入力 AC100V/出力 DC12V 1A)



1-3. 安全上のご注意(必ずお読み下さい)

お使いになる方や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

- 表示内容を見逃して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区別し、説明しています。

 警告	この表示の欄は「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物質的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。



- 本機の取り扱いについて

●本機は、精密部品で作られた無線通信機器です。分解・改造はしないで下さい。事故や故障の原因となります。	 禁止
---	---

- 使用環境及び保管環境について

●下記の場所での使用及び保管は故障や誤動作、特性劣化、火災・感電の原因となることがありますので避けて下さい。 <ul style="list-style-type: none">・直射日光のあたる場所での使用及び保管・製品内に液体や異物、腐食性ガスか可燃性ガスが入る可能性のある場所での使用及び保管・湿気の高い所や油煙、ほこり、砂などの多い場所での使用及び保管・ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所での使用	 禁止
--	---

警告

■本機の取り扱いについて

●人命にかかわるような極めて高い信頼性を要求される用途には、ご使用にならないで下さい。	 禁止
●電波が届くか届かない曖昧な範囲ではご使用にならないで下さい。	 禁止

■電源の取り扱いについて

ACアダプタ・電源コードの発熱、破損、発火などの事故防止のため、次のことは必ずお守り下さい。

●ACアダプタ・電源コードを火に近づけたり、火の中に入れて下さい。ACアダプタ・電源コードが破裂・発火して事故の原因になります。	 禁止
●ACアダプタ・本体は、破損・発火事故防止のため、指定された電源電圧以外では使用しないで下さい。	 禁止
●濡れやすい場所で、ACアダプタ・本体を使用しないで下さい。発熱・発火・感電などの事故や故障の原因となります。	 禁止
●濡れた手でACアダプタ・本体・電源コード・コンセントに触れないで下さい。感電などの事故の原因となります。	 禁止
●電源コードを破損させないで下さい。ショートや発熱により、火災や感電の原因となります。	 禁止
●電源プラグにほこりが付着したままで使用しないで下さい。ショートや発熱により火災や感電の原因になります。	 禁止
●ACアダプタに強い衝撃を与えないで下さい。事故や故障の原因になることがあります。	 禁止
●ACアダプタの変形などに気づいたら、使用しないで下さい。事故や故障の原因になることがあります。	 禁止
●引火性ガスが発生する場所では、ACアダプター及び本体は使用しないで下さい。発火事故などの原因になります。	 禁止
●絶対にACアダプタを分解しないで下さい。事故や故障の原因になることがあります。	 禁止

■使用中に異常が発生したときは

火災・感電等の原因となりますので、電源プラグをコンセントから抜いて販売店又は弊社に修理を依頼して下さい。

●煙が出たり、変なおいが出るときは使用を中止し、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて販売店又は弊社に修理を依頼して下さい。



●電源コードや電源スイッチが傷んだら使用しないで下さい。
そのまま使用すると火災や感電の原因になります。



■無線通信の信頼性について

無線通信は有線通信と異なる性質があり、下記要因により通信エラーが発生することがあります。

- ・通信距離を越えてしまっている。
- ・デッドポイントに入ってしまった。
- ・強い妨害電波がある。

頻繁に妨害される場合、また、妨害されることが運用上問題である場合は、使用を中止し妨害の原因を排除してからご使用下さい。

また、上記要因以外にも電波を受信できない状況が発生することがありますので、予めご理解の上、御使用下さい。

※デッドポイントとは、送信機から発信された電波が壁などで反射された電波に影響され電波が極端に弱くなる範囲のことです。

1-4. 概要

「WCP-426R-R」(以下、受信機)は、複数の場所に設置された送信機のON・OFF信号を受信し、オープンコレクタ出力する機器です。送信機には「RC-426T」(以下、送信機)を使用します。

生産現場等で発生する異常信号の収集、ワイヤレス呼び出しシステム等に利用できます。

受信機の出力点数は16点です。送信機1台に対する出力点数(1~2点)により、接続できる送信機の台数が決まります。又、出力点数増設用のオプション「WCP-232」を接続することができ、出力点数は最大48点となります。

電波による伝送方式のためケーブルが不要となり広範囲の信号の収集が容易にできます。

特定小電力無線局を使用しているため、ノイズに強く遠距離通信ができます。

(見通し距離:約100~300m)

データを1ヶ所で集中して把握することができ、生産の合理化に大きな効果をもたらします。

- 通信チャンネルを1ch~10chまで設定できます。送信機と受信機ともに個別に変更可能です。
- 混信を防ぐため機器識別用のセット番号('0'~'9')の設定が可能です。
- 1点出力で使用する場合、最大16台の送信機からの信号を受信機1台で受信できます。
(2点出力の場合は8台)
- オプションの増設用ユニット[WCP-232]を接続することにより、1点出力で使用する場合、最大48台の送信機の信号を受信できます。(2点出力の場合は24台)
- 送信機は、単4乾電池2本で使用できます。
また、送信機のボタンを押すとピッという音がなります。
- 送信機および受信機ともにチャンネルセット用およびセット番号用ロータリースイッチがあり、混信時には切り換えることができます。(chは1~10チャンネル、セット番号は0~9)
受信機側にはスイッチ出力チェック用OUT_LED及びOUT出力があり、どれか1点入力があればLEDが点灯し、オープンコレクタ出力します。

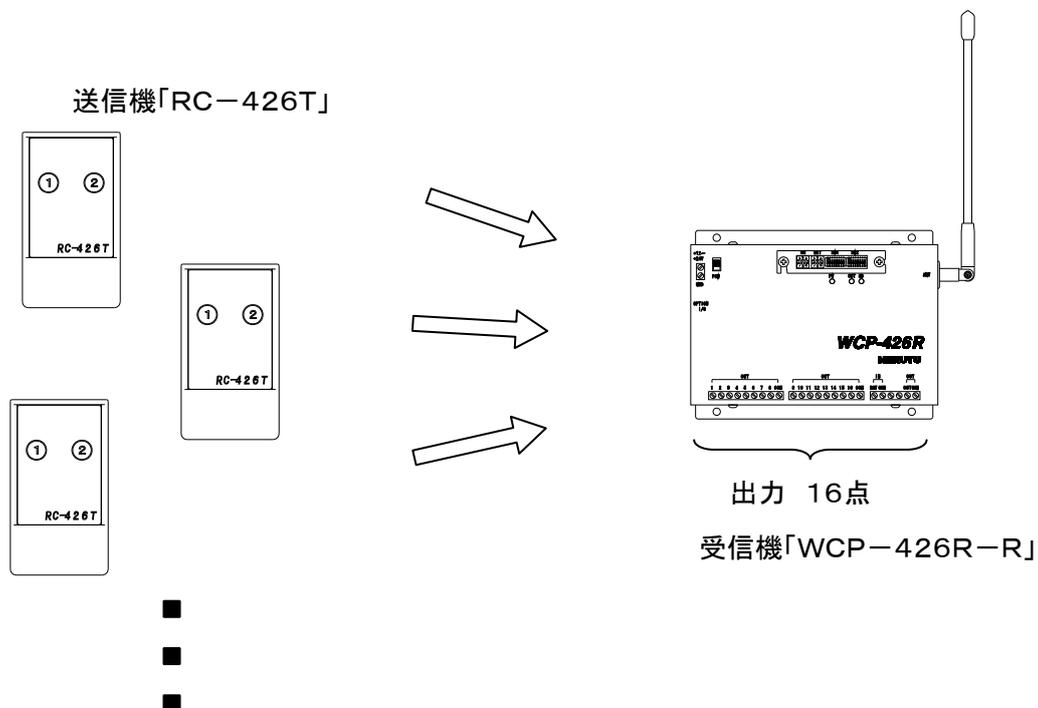
※同じチャンネル(周波数)の送信機2台以上から同時発信した場合、受信機で受信できない場合があります。

※1台の送信機から同時に2つの押しボタン①②が押された場合、スルータイプに設定されている場合は、受信機は入力に合わせて同時出力します。ラッチタイプに設定されている場合、受信機からの出力はOFFとなります。(押しボタン②が優先されます)

1-5. 機器構成

送信機は1, 2の押しボタンスイッチを持ち、単4乾電池2本で動作できます。

受信機は16点のオープンコレクタ出力、内部処理及び通信処理を行う8ビットCPUユニット、特定小電力無線モジュール及びDC-DC電源ユニットを1つのボード上に収め、DC12~24V入力にて動作します。増設ユニット「WCP-232」を1台接続することにより最大48点の出力点数となります。



送信機1台に対する 受信機の出力点数	WCP-426Rのみ使用時の 送信機の構成数(最大)	増設ユニットWCP-232接続時の 送信機の構成数(最大)
1点出力	16台	48台
2点出力	8台	24台

1-6. 仕様

1-6-1. 送信機「RC-426T」

送信機については「特定小電力タイプ 1mW送信機 RC426T」の取扱説明書をお読み下さい。

1-6-2. 受信機「WCP-426R-R」

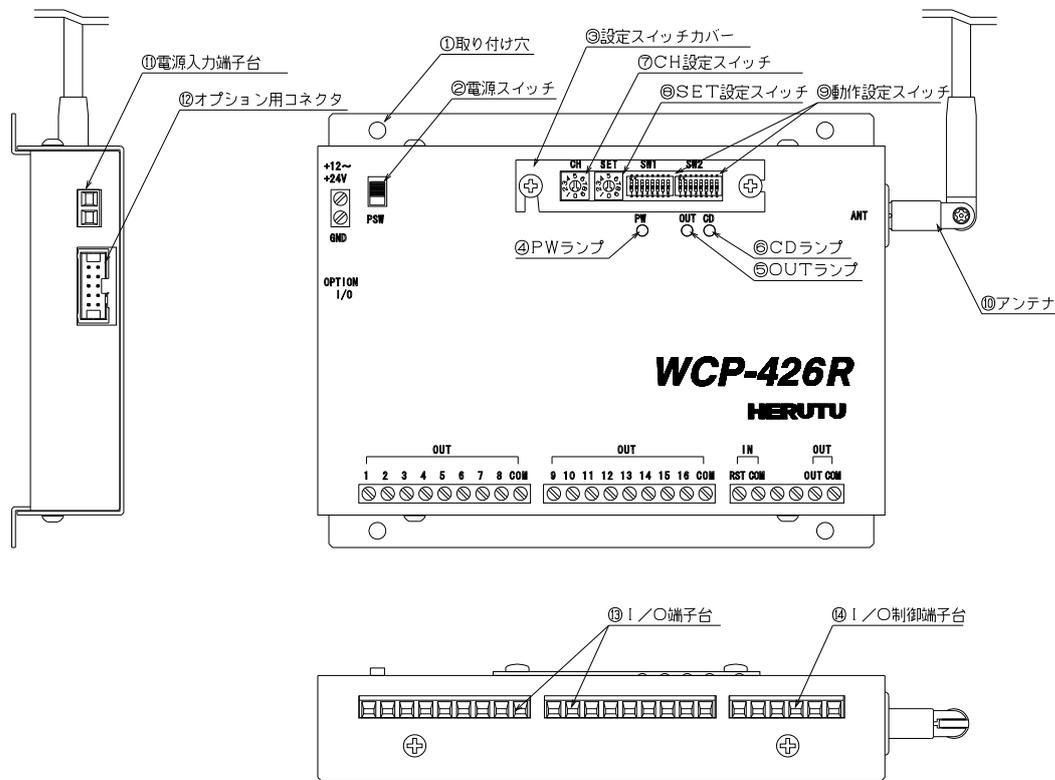
項目	仕様
使用周波数	426.0250MHz~426.1375MHz (12.5kHzステップ 10波 ロータリスイッチで切替)
アンテナ	$\lambda/4$ ホイップアンテナ
インターフェース	シリアル出力 × 1 ■WCP-232用
出力	オープンコレクタ出力 × 17点 ■信号出力用 × 16点 ■OUT出力用 × 1点
入力	無電圧接点入力 × 1点 ■RST入力用 × 1点
スイッチ	電源スイッチ × 1 ロータリースイッチ × 2 (CH設定用 × 1、SET設定用 × 1) 8連ディップスイッチ × 2 (動作設定用)
表示	POWER LED × 1 (赤色 LED) CD LED × 1 (緑色 LED) OUT LED × 1 (赤色 LED)
動作電源電圧	DC12~24V
消費電流 (DC12V時)	受信時最大 約60mA(全接点出力/無負荷時) 受信待機時 約45mA(全接点出力/無負荷時)
使用温湿度範囲	温度 0~50℃ 湿度 80%以下(結露なきこと)
外形寸法	117W×152D×30Hmm (突起物は除く)
重量	約510g

1-7. 各部の名称と説明

1-7-1. 送信機「RC-426T」

送信機については「特定小電力タイプ 1mW送信機 RC426T」の取扱説明書をお読み下さい。

1-7-2. 受信機「WCP-426R-R」



番号	項目	内容
①	取り付け穴	本機をパネル等に固定する場合にご利用ください。(φ4.5mm)
②	電源スイッチ	電源スイッチです。
③	PWランプ	電源ランプ(赤)です。
④	OUTランプ	1～16の端子のうち、いずれか出力があるとき点灯します。(赤)
⑤	CDランプ	同じチャネルにて電波を受信しているとき点灯します。(緑)
⑥	設定スイッチカバー	設定を変更する際にはビスを緩めてカバーをはずして設定してください。
⑦	CH 設定スイッチ	通信チャネルを設定します。(1～10CH 計10波の中から1波を設定)
⑧	SET設定スイッチ	セット番号を設定します。(0～9)
⑨	動作設定スイッチ	SW1-1 送信機1台での出力点数の設定(1/2点) SW1-2 受信動作のスルー及びラッチタイプの選択 SW1-3 セット No.のあり/なしの選択 その他のスイッチは未使用
⑩	アンテナ	アンテナです。

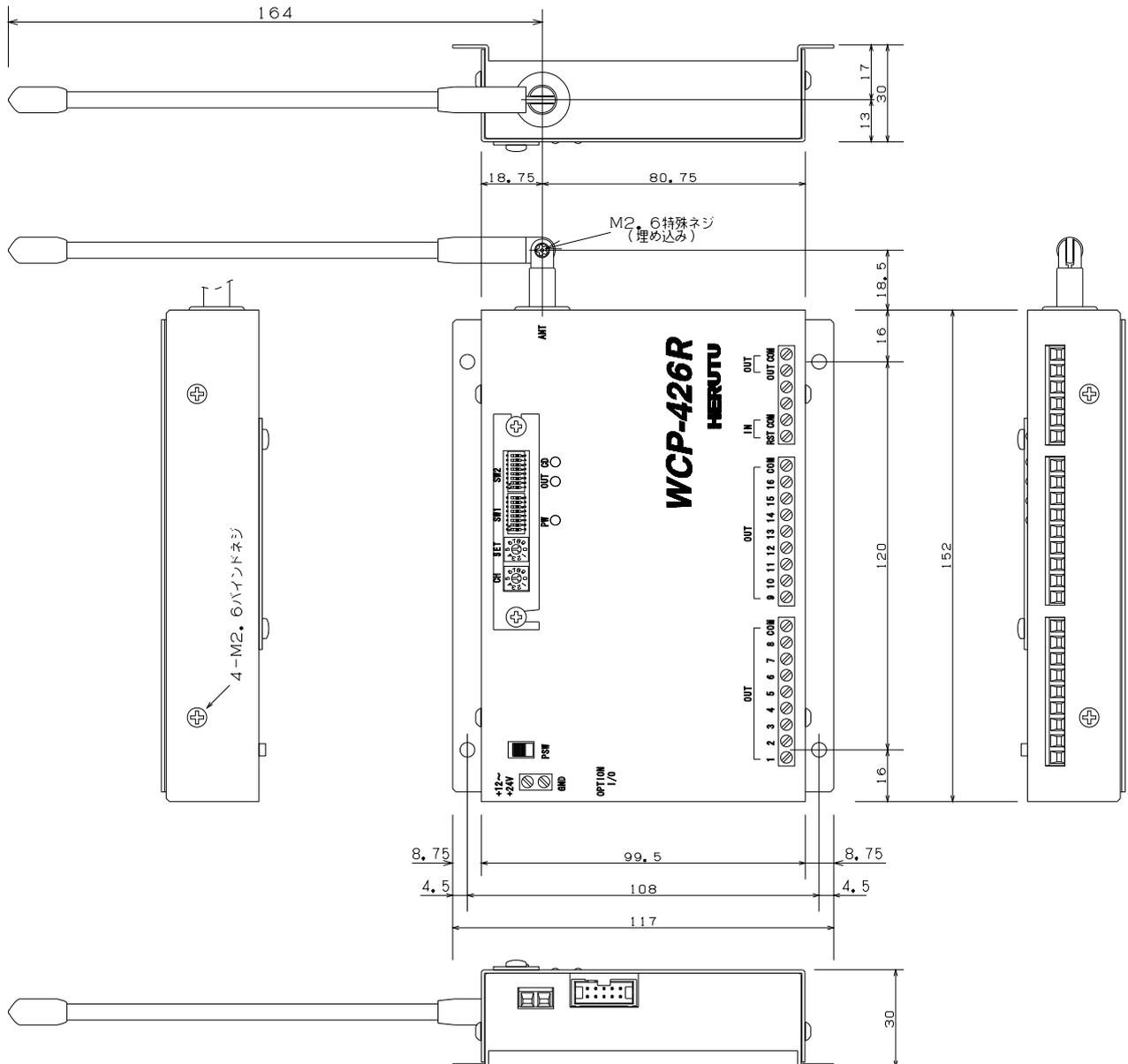
⑪	電源入力端子台	DC12～24Vを極性間違いのないよう接続します。
⑫	オプション用コネクタ	出力端子増設用[WCP-232]接続コネクタです。
⑬	I/O端子台	1～16までの出力用端子台です。
⑭	I/O制御端子台	RST入力 受信機の出力を全てOFFにします。 OUT出力 出力中の端子があるとき出力します。OUTランプと連動

1-8. 寸法図

1-8-1. 送信機「RC-426T」

送信機については「特定小電力タイプ 1mW送信機 RC-426T」の取扱説明書をお読み下さい。

1-8-2. 受信機「WCP-426R-R」



1-9. 設置方法

1-9-1. 設置時の注意事項

次のことに注意して設置して下さい。

- ① アンテナは金属板や電線から遠ざけ、また平行にならないようにして下さい。
- ② ノイズ発生源から離して下さい。
- ③ 送信機と受信機のアンテナ間に、遮蔽物がない場所を選んで下さい。
- ④ 通信性能は、設置環境に大きく依存します。通信が可能であるか確認の上、設置して下さい。
- ⑤ 本装置(送信機・受信機)は、防塵／防滴構造ではありません。

* 以下のような場所には設置しないで下さい。

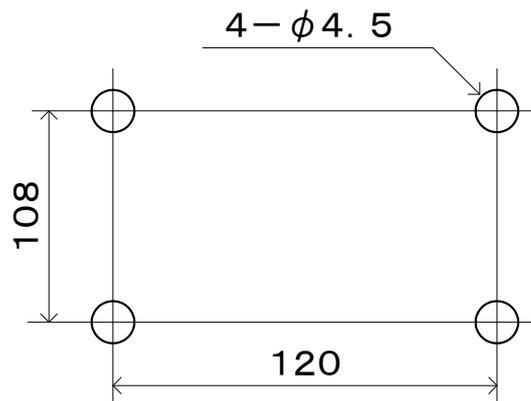
- ・ 直射日光があたるところ
- ・ 湿度が非常に高いところ
- ・ テレビやラジオの近く
- ・ 溶接機など火花を飛ばすものの近く
- ・ 強い磁界を発生しているところ
- ・ 鉄骨や金属壁で囲まれたところ
- ・ 本装置からの電波により、誤動作をする可能性のある装置の近く

1-9-2. 送信機「RC-426T」の設置

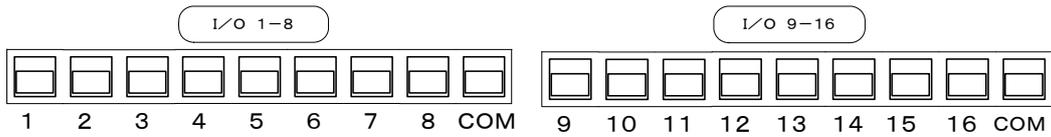
送信機については「特定小電力タイプ 1mW送信機 RC-426T」の取扱説明書をお読み下さい。

1-9-3. 「WCP-426R-R」の取り付け

パネル等に取り付ける場合は下図のようにM3またはM4のネジにて取り付けてください。



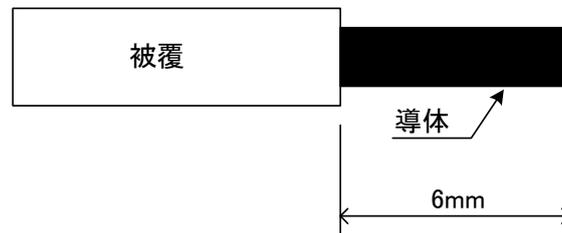
1-9-4. 「WCP-426R-R」の端子台へのケーブル接続



端子台 オムロン製 W4E-09C1-V1

各端子台に接続するケーブルを製作する場合は、以下の仕様に従って下さい。

- 適合電線 撚線:1.25mm² (AWG16)
- 使用可能電線範囲 撚線:0.14mm²~1.25mm² (AWG26~16)
- 標準むき線長さ 6mm



- ネジ締め付け適合工具 マイナスドライバー(軸径φ3:刃先幅2.6)
端子ねじ締め付けトルクは0.5~0.6N・mで締め付けてください。
端子台ねじ頭での通電確認をする場合は、ねじを締め付けた状態にて実施してください。

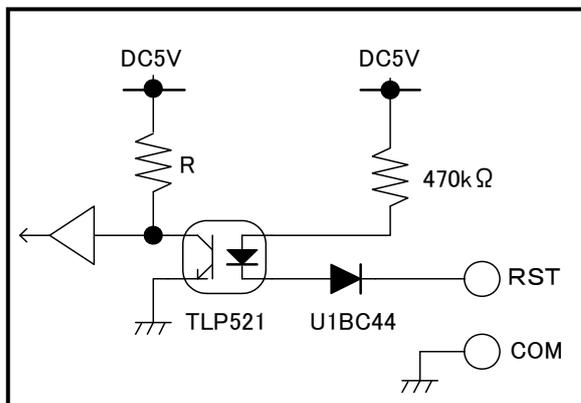
1-9-5. 「WCP-426R-R」の入出力端子台回路構成

●入力(RST入力)

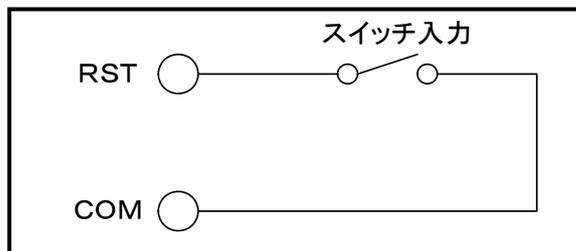
無電圧接点入力

無電圧接点入力には5V10mAを安定してON/OFFできるチャタリングの少ないものをご利用下さい。

入力回路構成(RST入力)



接続例



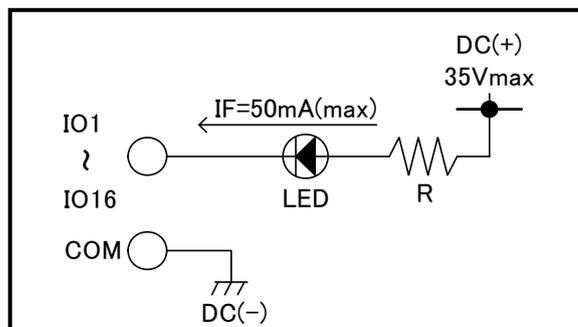
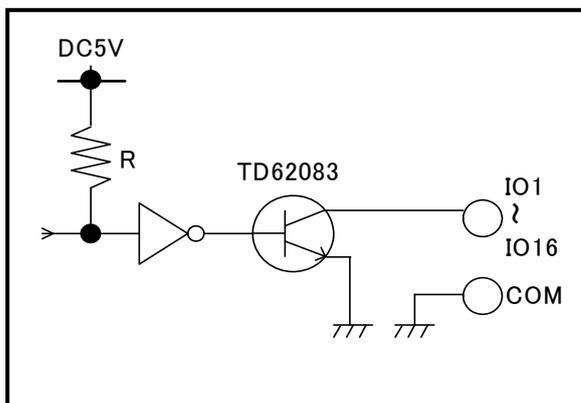
【接点入力 (スイッチ短絡でON)】

●出力(信号出力1~16, OUT出力)

オープンコレクタ出力

定格 最大出力印加電圧 DC35V/最大出力駆動電流 1端子当たり50mA

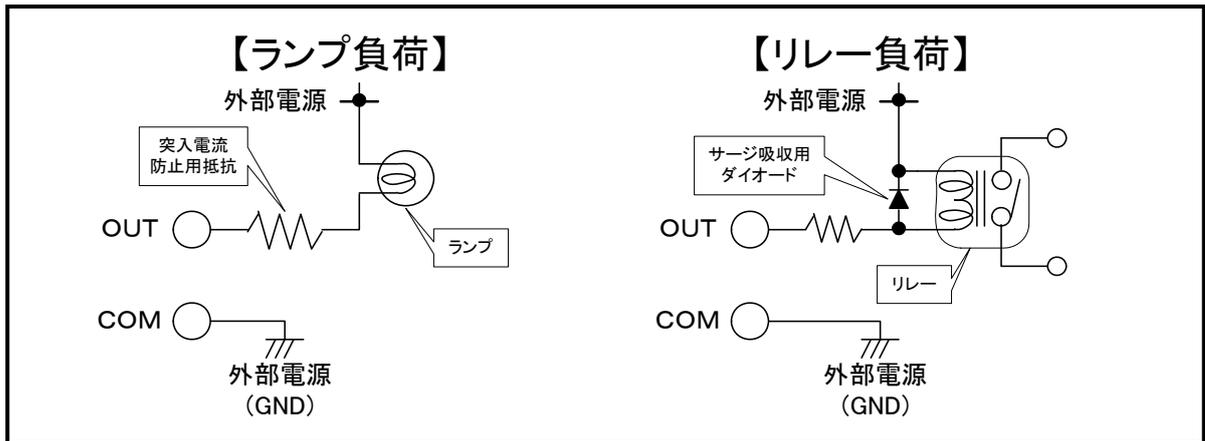
出力回路構成(オープンコレクタ出力)



【接点出力 (ONでLED点灯)】

1端子当たりの駆動電流以内でご使用下さい。
規定の電源電圧や駆動電流を越える場合は、リレー等のドライブ回路を接続してご使用下さい。
また、ランプやリレーなどの誘導負荷を接続する場合は、突入電流を考慮して下さい。

定格値を越えた電圧/電流での使用は、ユニットを破損するばかりでなく接続する他の機器を破損する場合があります。接続する機器や装置に応じて、リレー等の適切なドライブ回路を接続してご使用下さい。特に、ランプやリレーなどの誘導負荷を制御する場合は、負荷側で適切な対策を行って下さい。(次ページ参照)



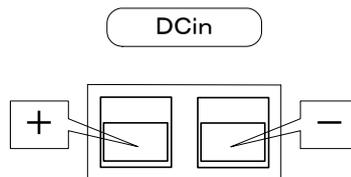
1-9-6. 「WCP-426R-R」の電源入力端子台

ユニットの動作電源を供給します。

電源極性を誤り接続することや規定外の電源電圧を供給した場合は、ユニットを破損するばかりでなく、接続する他の機器に影響を与える場合がありますので、十分ご注意ください。

- 電源電圧 DC12～24V(推奨:DC12V)
- 使用端子台 オムロン製 XW4E-02C1-V1
- 端子配列

(ケーブル挿入方向から見た図)



- ケーブル接続加工はP12を参考に製作願います。

第2章. 使い方

2-1. 送信機「RC-426T」

送信機については「特定小電力タイプ 1mW送信機 RC-426T」の取扱説明書をお読み下さい。

2-2. 受信機「WCP-426R-R」の動作設定

動作設定スイッチで受信機の動作設定を行います。動作設定スイッチはSW1のみ使用します。SW2は未使用です。

2-2-1. 端子台出力点数の設定

受信機の動作設定スイッチのSW1-1にて送信機1台あたりの出力点数(1/2点)の端子割り付けを設定します。

SW1-1	出力点数
OFF	1点
ON	2点

* 送信機のユニット番号および機器番号にて受信機の出力端子位置が決まります。オプションのWCP-232を接続することにより送信機の最大接続台数は下記のようになります。

送信機1台あたりの出力点数	送信機の台数
1点出力	48台
2点出力	24台

2-2-2. スルー、ラッチタイプの設定

動作設定スイッチのSW1-2にて受信動作のスルー、ラッチタイプを設定します。

SW1-2=OFF	スルータイプ
SW1-2=ON	ラッチタイプ

スルータイプ : 送信機の押しボタンが押されている間、端子より出力します。
ボタン離されたときは出力を停止します。

ラッチタイプ : 送信機の①ボタンで出力し、②ボタンで出力を停止します。

※ラッチタイプに設定した場合は、端子台出力点数の設定(SW1-1)に関係なく、1点出力に設定されます。

2-2-3. セットNo.の設定

動作設定スイッチのSW1-3にてセットNo.のあり／なしを設定します。

SW1-3=OFF	セットNo.あり
SW1-3=ON	セットNo.なし

セットNo.あり : 送信機から受信機に対して伝送する通信フォーマットにセットNo.を含んでいる場合は“セットNo.あり”とします。

セットNo.なし : 送信機から受信機に対して伝送する通信フォーマットにセットNo.を含んでいない場合は“セットNo.なし”とします。

セットNo.なしの場合は、受信機のセットNo.設定は無効となります。

2-2-4. CH及びSET設定方法

設定はCH設定スイッチ及びSET設定スイッチにて行います。

■通信チャンネルの設定

CH設定スイッチで通信チャンネルを設定します。通信チャンネルは送信機と同一に設定します。

CH設定スイッチ	チャンネル	周波数
1	1ch	426.0250MHz
2	2ch	426.0375MHz
3	3ch	426.0500MHz
4	4ch	426.0625MHz
5	5ch	426.0750MHz
6	6ch	426.0875MHz
7	7ch	426.1000MHz
8	8ch	426.1125MHz
9	9ch	426.1250MHz
0	10ch	426.1375MHz

■セットNo.の設定

SET設定スイッチでセットNo.を設定します。セットNo.は送信機と同一に設定します。

SET設定スイッチ	セットNo.
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8

送信機で設定可能なセット No.は1~8となります。

受信機でのSET設定スイッチの0と9の場合、セット No.は強制的に1となります。

2-3. 受信機「WCP-426R-R」の動作説明

2-3-1. スルータイプ動作

送信機の押しボタンからの信号を受信する間出力をONします。

ON信号を受信している間は出力をONしていて、受信が終わってから0.5秒後に出力をOFFします。

送信機の押しボタン①と②を同時に押した場合にも対応します。

2-3-2. ラッチタイプ動作

送信機の押しボタン①で出力し、押しボタン②で出力をOFFします。

送信機の押しボタン①と②が同時に押された場合は、②が優先され出力はOFFします。

※ラッチタイプに設定した場合は、端子台出力点数の設定(SW1-1)に関係なく、1点出力に設定されます。

2-3-3. 「WCP-426R-R」出力点数設定と送信機設定の出力端子位置

出力点数設定と送信機設定の出力端子位置は、次の様になります。

送信機(RC-426T)設定と出力端子内容

<スルータイプ>

<ラッチタイプ>

端子 No.	1点出力				2点出力		
	UNIT No.	KIKI No.	ON 入力	OFF 入力	UNIT No.	KIKI No.	ON 入力
1	1	1	①	—	1	1	①
2	1	2	①	—			②
3	1	3	①	—	1	2	①
4	1	4	①	—			②
5	1	5	①	—	1	3	①
6	1	6	①	—			②
7	1	7	①	—	1	4	①
8	1	8	①	—			②
9	2	1	①	—	1	5	①
10	2	2	①	—			②
11	2	3	①	—	1	6	①
12	2	4	①	—			②
13	2	5	①	—	1	7	①
14	2	6	①	—			②
15	2	7	①	—	1	8	①
16	2	8	①	—			②

端子 No.	1点出力			
	UNIT No.	KIKI No.	ON 入力	OFF 入力
1	1	1	①	②
2	1	2	①	②
3	1	3	①	②
4	1	4	①	②
5	1	5	①	②
6	1	6	①	②
7	1	7	①	②
8	1	8	①	②
9	2	1	①	②
10	2	2	①	②
11	2	3	①	②
12	2	4	①	②
13	2	5	①	②
14	2	6	①	②
15	2	7	①	②
16	2	8	①	②

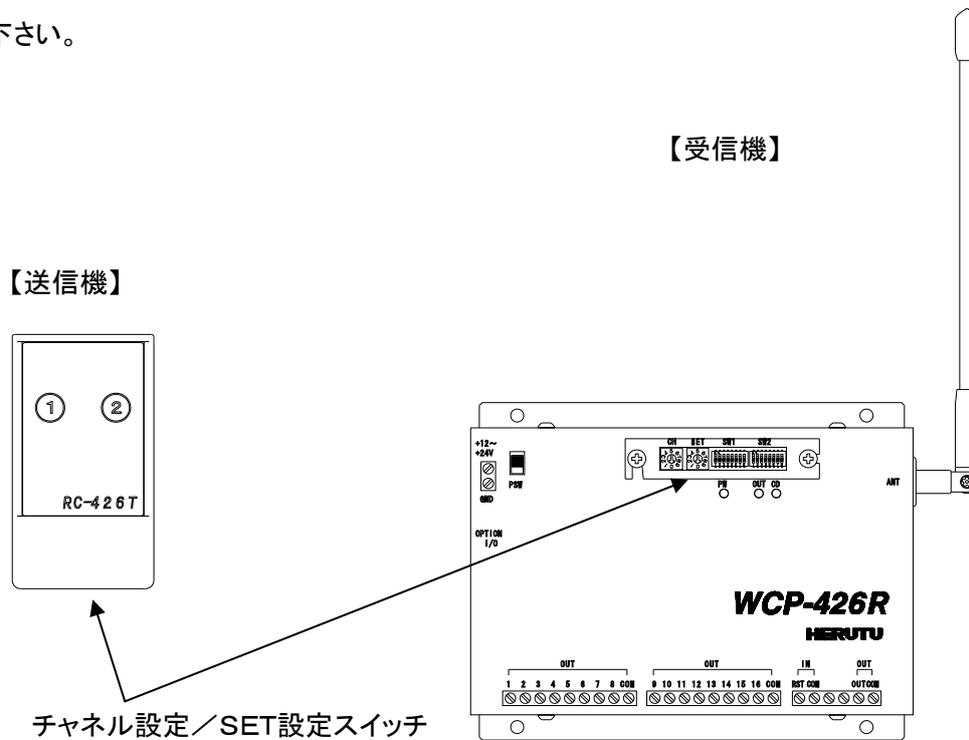
※増設ユニット接続時の出力端子内容については増設ユニット「WCP-232」取扱説明書をご覧ください。

2-4. 運用にあたって

2-4-1. 送信機と受信機の設定例

ご使用になる場合には、送信機と受信機のCHNo.およびSETNo.は、同じ設定にしてください。

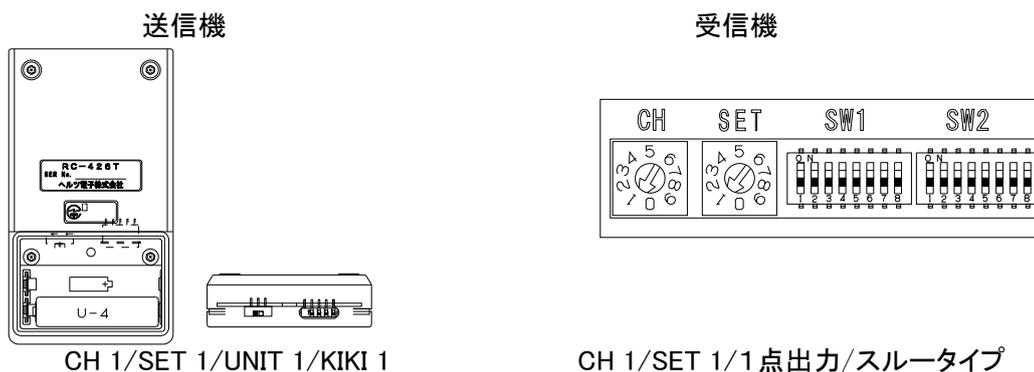
受信機からの出力端子No.は送信機のUNITNo.とKIKINo.により決定します。送信機設定と受信機からの出力端子については「2-3-3. WCP-426R-R出力点数設定と送信機設定の出力端子位置」をご覧ください。



同じエリアで複数セットをご使用する場合は混信等誤動作の原因となりますのでCH及びSET番号を変えてご使用願います。

通信例) CH1 / SET1 出力点数1点 スルータイプ

受信機の出力端子No.1から出力



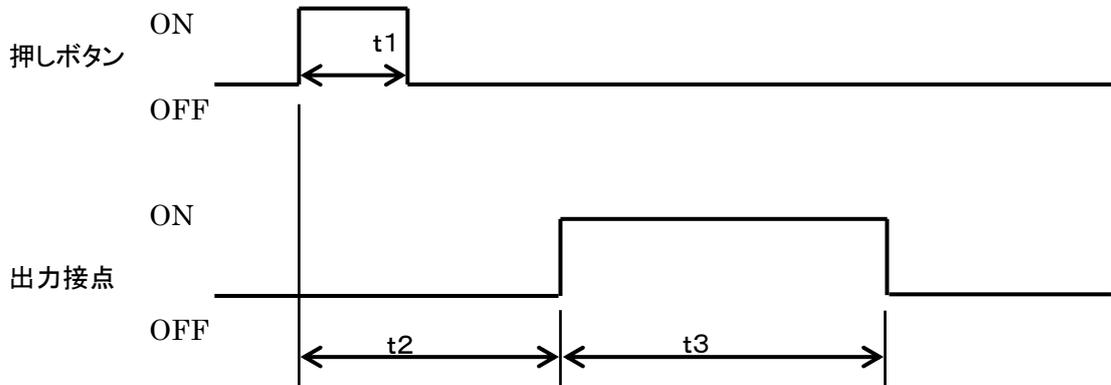
上記設定後、送信機および受信機へ電源を接続します。(受信機の設定を変更した場合、必ず電源を入れ直して下さい。)

送信機の押しボタンスイッチ①を押すと受信機のCDランプが点灯するとともにOUTランプが点灯することを確認します。押しボタン①を離すと出力がOFFすることを確認します。

2-4-2. 受信タイミング

送信機の押しボタンが押されてから受信機から出力されるまでの伝送遅れ時間は下記の通りです。ただし、正常に受信できる範囲内での値です。

<受信タイミング>(スルータイプの場合)



- ・ t_1 (入力時間) = 60msMIN(入力判定時間含む)
- ・ t_2 (遅延時間) = 約320ms(正常受信時の最短時間)
- ・ t_3 (出力時間) = 約1000ms(正常受信時)
500msMIN

※同じチャンネル(周波数)の送信機2台以上から同時発信した場合、受信機で受信できない場合があります。

※1台の送信機から同時に2つ以上のキー入力(又は端子入力)があった場合、受信機は入力に合わせて動作しますが、押しボタン①と②の同時入力はOFF信号が優先されます。

※キーを押し続けた場合、約2.8秒周期で出力接点がONします。

第3章. 取扱上の注意

3-1. 取扱上の注意事項

■受信機を制御盤等に組み込む場合

制御盤等に組み込む場合は、アンテナの根元が制御盤より外に出るように取付けて下さい。

■受信機の設定を変更する場合は、必ず電源をOFFにして行って下さい。

■送信機の乾電池の交換

使用される乾電池にはアルカリ乾電池をお勧めします。

次の手順で交換してください。

- ① 本体裏面にあるプラスチック製の乾電池ケースの蓋を外するためにネジを外します。
- ② 内部の電池ケースに単4型乾電池を取り付けます。この時、電池の極性を間違えないようにしてください。
- ③ 電池ケースの蓋を取り付けネジで締めます。

■乾電池使用上の注意

- ① 長時間使用されない場合や、保管する場合は乾電池を取り外しておいてください。
- ② 交換する乾電池は、必ず2本とも新しい同じ種類の電池にしてください。
古い乾電池や、種類の違う乾電池を混用すると乾電池の寿命が短くなるばかりでなく、故障の原因になる恐れがあります。

3-2. トラブルシューティング

症状	原因と対策
PWランプが点灯しない	電源が供給されていない。
	→電源を供給してください。P14
	電源スイッチがOFFになっている。
	→電源スイッチをONにしてください。
通信できない。 (CDランプが点灯しない)	送信機と受信機のCHが一致していない。
	→CH設定スイッチを合わせて下さい。
	電波が届いていない。
	→CDランプが全く点灯しない場合は電波が届いていない状態です。設置場所を変更して下さい。
通信できない。 (CDランプは点灯するがOUTランプが点灯しない)	送信機と受信機のSETNo.が一致していない。
	→SETNo.を合わせて下さい。
	各種設定が一致していない。
	→動作設定スイッチの内容があっているか確認して下さい。P15～P18
通信できない。 (OUTランプは点灯するが出力しない)	オープンコレクタ出力又はCOMの接続が外れている。
	→接続を確認して下さい。P12
PWランプが点滅する	増設ユニットWCP-232との接続エラーです。
	→増設ユニットが接続された状態で電源ON後、接続ケーブルが引き抜かれたりすると通信異常とみなしPWランプを点滅します。
	→
	→
	→

3-3. おかしいな?と思ったら

正常な状態でご使用中に、万一機器の異常が確認されたときには、「3-2. トラブルシューティング」をご覧ください。

対策を行っても現象が改善されない場合や、対策方法が不明の場合は

製品名・製造番号・使用環境 接続している外部機器 異常発生までの処理手順 具体的な発生内容など
--

を、お買い上げの販売代理店、または弊社営業部までお問い合わせ下さい。

ご使用になられる方がユニットを分解・改造して使用することは、法律で禁止されており、罰せられることがあります。
--

3-4. 保証

本規定はお買い上げになられた製品を安心してご利用いただけるよう出荷後の保証について弊社が定めたものです。弊社製品が故障した場合は、この規定に基づき修理・交換いたします。

■保証期間

保証期間は他に定めのない限り弊社からの製品出荷後13ヵ月となります。

保証期間内は、保証規定の定めにより弊社にて無償修理致します。

保証期間中の修理やアフターサービスについてご不明な場合は、お買い上げの販売店、または弊社営業部までご相談下さい。

■保証範囲

上記範囲内に当社の責任による故障が発生した場合は、無償での代替品との交換または修理をさせていただきますので、お買い上げの販売店、または弊社営業部にお申し出下さい。なお、代替品との交換または修理を行った場合の保証期間は対象製品の当初出荷日から13ヵ月又は代替品出荷から6ヵ月のいずれか遅く訪れる日までとします。また保証範囲は、本製品のハードウェアに限らせていただきます。

保証期間内においても以下の各号に該当する場合には保証の対象外とさせていただきます。

1. お客様による輸送・移動時の落下、衝撃等、お客様のお取扱いが適正でないために生じた故障・損傷の場合。
2. お客様による本体の分解や改造による故障の場合。
3. 火災・地震・水害等の天災地変および異常電圧による故障・損傷の場合。
4. 本製品に接続している当社指定機器以外の機器の故障に起因する故障の場合。
5. 本体以外の付属品(AC アダプター、アンテナ、接続ケーブル等)は含みません。
6. 弊社以外で修理・調整・改良した場合。
7. 消耗品や寿命品(バッテリー含む)の交換の場合。
消耗品・寿命品には下記の商品が含まれます。
 - ①各種スイッチ類(リミットスイッチ、押しボタンスイッチ等)
 - ②電池・バッテリー(乾電池、ボタン電池等)
 - ③その他使用により消耗・寿命があるもの
8. 本取扱説明書に記載された使用方法及び注意事項に反するお取扱いによって生じた故障の場合。

■初期不良について

製品出荷日より起算し30日以内を製品初期不良期間とします。期間内にお買い上げの販売店、または弊社営業部にご送付いただき、製品確認後、初期不良とみなされた場合は新品交換または修理対応を無償にて行います。

初期不良の場合、送料は弊社にて負担させていただきます。但し、日本国内の送料に限らせていただきます。

日本国外でご購入及びお買い上げいただいた場合の海外輸送費・保険料・関税等の掛かる費用については別途協議の上、決定することとします。

■免責事項

本製品の故障や障害、その使用によって生じた直接的・間接的な損害、金銭的損失については一切の責任を負いません。

■有償修理対応期間

予備部品の在庫が弊社にある場合に限り、保証期間終了後であっても本製品に対し、生産中止後5年間は有償にて修理対応致します。但し、使用部品の廃止等やむを得ない理由により代替部品の使用又は代替機により対応させていただくことがあります。

■その他

- 保証期間に関係なく、修理は調整等測定機器類の必要上、弊社への持ち込み修理を原則とし、持ち込み時に発生する送料等はお客様の負担とさせていただきます。なお、出張修理を行う場合、または保証期間中に代替機が必要な場合は、有償にて承りますのでお買い上げの販売店または弊社営業部までご相談下さい。
- 修理受付後、弊社技術部門において障害の再現できない場合は、交換・修理を致しかねる場合があります。また、障害の再現をするための技術調査費用を別途請求する場合があります。
- 弊社WEBSITE上及び弊社が提供しているカタログ、マニュアル又は技術資料、その他の資料に記載されている本製品の情報は、お客様にお断りなく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

添付設定表

動作設定スイッチ SW1

SW	内容	
1	端子台出力点数の設定	
	1	内容
	OFF	1点
	ON	2点
2	スルー／ラッチ タイプの設定	
	2	内容
	OFF	スルータイプ
	ON	ラッチタイプ
3	セットNo.の設定	
	3	内容
	OFF	セットNo.あり
	ON	セットNo.なし
4 5 6 7 8	未使用	

動作設定スイッチ SW2

未使用です。



ヘルツ電子株式会社

HERUTU ELECTRONICS CORPORATION

〒433-8103 静岡県浜松市北区豊岡町62-1

(営業部) TEL. 053-438-3555 FAX. 053-438-3411

ホームページ <http://www.herutu.co.jp> E-mail webmaster@herutu.co.jp